

プレスリリース : 現代工芸ギャラリーの企画展

2018年 3月吉日 発信

報道関係 各位

現代工芸作家の企画展「今日の一服」。

茨城県や岐阜県の陶芸家や、アートなダルマを作る作家の作品などをセレクトした、ギャラリーHANDECO（茨城県）が、十日町市で6日間の企画展「今日の一服」を開催します。

ギャラリーHANDECO（運営：株式会社ワポーター）は、優れた日本の工芸品をセレクトし、茨城県や首都圏、ウェブサイトを中心に企画展覧展を開催し、日本の工芸品の日常的な活用方法を提案している。一般消費者向けに工芸品の使い方やその技術に寄り添い伝えることで、より身近な存在で長く使っていただける日用品であることを、体験してもらい大量生産ではないものづくり分野の需要を高めることを目的として活動している。

今回の企画展のテーマは「今日の一服」。日常の「一服する」ことに着目した。さかのぼれば一千年以上の歴史を背負う「一服」という言葉は、茶の薬効や古き日本の喫茶文化から生まれたという背景がある。そこには必ず、良いお茶があり洗練された陶磁器があった。

今回は時代とともに変化してきたお茶文化の多様性とうつわを楽しむ、癒しの一服の時間に着目した企画展である。

展示品は全て現代作家が今回の企画のために制作した正規販売品。価格は日用品の陶器は1,000円から10,000円、茶道具などは10,000円から80,000円の見応えある作品まで揃えた。期間中は、自然農法にこだわる松之山のハーブティ「神眼箒茶」の試飲と販売、新作のホーリーバジルスパイスを使ったフィンガーフードの試食会も行われる。（参加費300円）展示作家のワンプレート皿で楽しく盛り付けられた、ホーリーバジルスパイス料理の試食は、まつのやま茶倉の嶋村家が提供する。

<企画展概要>

開催： 2018年3月8日（木）～3月13日（火）
会場： （有）柳工務所
住所： 十日町市住吉町23-1 入場無料・駐車場あり

出展作家は、国内外で活躍する11名の陶芸家やダルマ作家。
作家：飯沼耕市、沖誠、小林哲生、塩谷良太、羽石修二、根本幸一、根本峻吾、中野明彦、宮木英至、Craft Boro×Boro、ムトウセッカ

Gallery HANDECO 販売サイト

<https://handeco.thebase.in>

まつのやま茶倉

<https://www.facebook.com/matsunoyama.cakra/>

伝統技術に密着しセレクトされた現代の器と、地元の奥秘境・松之山産のお茶とのコラボ企画展になります。ごうぎな雪に一服、春を目前に日常が楽しくなる一服の時間や、作り手の感性や暖かみを感じるうつわなどの工芸品を、作家達に企画に合わせて作ってもらい、十日町市の皆様にお届けいたします。

協力：有限会社柳工務所、まつのやま茶倉、有限会社秀美、蕎麦&だいにんぐ にし乃

主催：株式会社ワポーター <http://waporter.com>

事業内容：展覧会の企画運営、芸術品の海外仲介、海外マーケティング事業

